# 法律学演習Ⅲ

科目ナンバリング　SEM-401
必修　　2単位

喜多　康夫

1. 授業の概要（ねらい）

本演習の目的は5つあります。第1に、国際法の基礎知識の習得です。第2に、リーガルマインドの涵養です。第3に、社会への関心の育成です。第4に、報告の仕方とレポートの書き方を身に着けてもらいたいと思います。第5に、他の人たちと協力して仕事ができるようになることです。

第1点目と第2点目については、国際法の教科書について報告してもらい、できるかぎり教員と学生の間の対話を重視したいと思います。

第3点目については、国際法を学ぶ基礎として世界の動向を知るために、日本経済新聞をゼミで読みます。

第4点目については、報告におけるレジュメの作成と報告の実施、および成績評価のためのレポートを作成してもらうことによって、学術能力を向上してもらいたいと考えています。

第5点目については、授業での報告はグループワークとして行ってもらうことで、他の人たちとの協力作業を行ってもらいます。

2. 授業の到達目標

①国際法の体系を理解することができる。
②基本的な世界の動向を知ることができる。
③論理的に自己の主張を展開できる。

3. 成績評価の方法および基準

各回における報告と質問票及びレポートにより、成績を評価します。

4. 教科書・参考文献

教科書

戸田山和久　『新版　論文の教室』　NHK出版
杉原高嶺　『基本国際法（第3版）』　有斐閣
薬師寺公夫・坂元茂樹・浅田正彦・酒井啓亘（編集代表）　『判例国際法（第3版）』　東信堂
条約集についてはまた後日におって知らせしますが、指定する条約集は必須です。

5. 準備学修の内容

①このゼミでは、まず戸田山和久『論文の教室　新版』を輪読します。学生の皆さんはあらかじめ予習として読んできてください。
②報告内容をレジュメにまとめてもらい、グループとして報告をしてもらいます。その準備と予習は必要です。

6. その他履修上の注意事項

【関連科目】この法律学演習は国際法のゼミなので、国際法の基礎知識はやはり必要です。そのため、国際法体系の全体構造に関する授業である「国際法Ⅰ（歴史・法源）」、「国際法Ⅱ（主体）」、「国際法Ⅲ（空間）」及び「国際法Ⅳ（秩序維持）」を履修することが望ましいと考えます。また、さらに国際法の専門分野として、「国際組織法Ⅰ／Ⅱ」「国際人権法」「国際安全保障法」「国際経済法I／II」「国際裁判所論I／II」「国際刑事法I／II」なども直接的にも、または間接的にもこのゼミに関連します。

【学生へのメッセージ】学部生時代を振り返れば、一番楽しかった授業は演習でした。ゼミ仲間との議論や親睦は今でもいい記憶です。本演習ではしっかりと勉強してもらいますが、勉強を知的な遊びと感じてもらえると嬉しいです。

質問のある学生は、yaskita@main.teikyo-u.ac.jpにまでメールを送ってください。なお、その場合は表題に「・・・の件」とした上で、氏名及び学籍番号と用件の内容をメール本文に記して送ってください。

7. 授業内容

【第1回】　・オリエンテーション
・昨年度のレポートの講評
・班の形成
・日経新聞輪読

【第2回】　・報告の仕方：国際社会と国際法の発展
・日経新聞輪読

【第3回】　・資料の探し方（MELICの使い方とデータベース）

【第4回】　①『論文の教室』第1章・第2章・第3章・第4章
・日経新聞輪読

【第5回】　②『論文の教室』第5章・第6章
・日経新聞輪読

【第6回】　③『論文の教室』第7章・第8章・第9章
・日経新聞輪読

【第7回】　①A班：領域権原
・日経新聞輪読

【第8回】　②A班：領域権原に関する判例
(a)パルマス島事件
(b)ブルキナファソ・マリ国境紛争事件
・日経新聞輪読

【第9回】　③B班：海洋の構造
・日経新聞輪読

【第10回】　④B班：海洋の構造に関する判例
(a)ノルウェー漁業事件
(b)南シナ海事件
・日経新聞輪読

【第11回】　⑤C班：海洋境界画定
・日経新聞輪読

【第12回】　⑥C班：海洋境界画定に関する判例
(a)リビア・マルタ大陸棚事件
(b)黒海大陸棚事件
・日経新聞輪読

【第13回】　⑦D班：海洋生物資源管理
・日経新聞輪読

【第14回】　⑧D班：海洋生物資源管理に関する判例
(a)みなみまぐろ事件
(b)南極海捕鯨事件
・日経新聞輪読

【第15回】　オンライン授業としてのレポート作成と提出